

# 江北の四季

令和2年

6月18日

第12号



夏椿(ナツツバキ) 別名は沙羅樹(ジャラノキ) 蕾も花もいとおいしい 「沙羅の花」は夏の季語

お釈迦様が涅槃に入ったのは、沙羅双樹(サラソウジュ)の下。夏椿と誤認されたいらしい。

○雨上がりに外に出ると、足下のイシクラゲに目がいつてしまします。砂利敷きの駐車場をよく見ると、点、点と、わかめのようなものが現れています。乾燥時にはほとんど目にはつきませんが、雨の後はぶよぶよ。早速、使わなくなった手鍋とピンセットを持ってイシクラゲとりです。1時間あまりかかりました。春から秋にかけて、年に3〜4回くらいとっています。「姉川クラゲ」とよんで、昔は食用にしたこともあるようですが、今は害虫ならず害藻です。胞子で広がり靴に付いても広がるので、困ったものです。



これは常緑のヤマボウシ(月光)

農家に伝わる諺に、「上農は草を見ずして草を取り、中農は草を見て草をとり、下農は草を見て草を取らず。」という言葉があります。草を見ずして草を取るなんてこ



シモツケ



キスゲ

とはできませんから、草を見て草を取るのですが、我が家は「結構伸びてから草を取る」のが現状です。草についてはこの対応でも、野菜も花も育つので問題は無いのですが、イシクラゲは見つけたときにとらなないと、あっという間に広がりが手がつけれなくなりそうです。ということ、雨の後は何をしておきイシクラゲとりに精を出すことになりました。時間をおくと乾いてきて小石にへばりつき、とりにくくなりますし、さらに時間がたつと小さくなって行方不明となります。また、雨上がり直後は、ぶよぶよしすぎてうまくとれません。中農はイシクラゲを見てイシクラゲをとるタイミンが大事です。



☆耳寄り情報

しかしながら農道や里道までは手が回りません。草がある程度はえているとイシクラゲは繁殖しません。除草剤できれいにしてしまうとイシクラゲにとっては好都合で、ものすごい繁殖地となっています。そういふところにはお酢をまいていきます。休眠状態の乾燥しているときにまいても効果はありませんが、ぶよぶよの時は休眠から冷めて代謝がよくなっているのでお酢を吸収し弱体化します。実際にはお酢(酢酸が4%含まれています)は高いので、通販で買った氷酢酸(100%の酢酸のこと 500ml瓶 約600円)を20倍に薄めて散布しています。雑草も枯れるので一石二鳥です。困っている方はやってみてください。



アメリカテマリシモツケ (レディーインレッド)



コレオブシス (マキユリライジング)



アマリリス(ピンク)

○季節は「第二十七候 芒種 末候 梅子黄(うめのみきなり)」です。梅雨の季節に入り、梅の実が熟して薄黄色に色づく頃となりました。我が家でも以前は梅の木がたくさんあったので、青い硬めの実が梅酒にし、黄色くなった実は梅干しにしています。今は我が家の需要も減り、数年に一度、買ったものを加工するくらいです。梅雨明け後の梅の天日干しも懐かしくなりました。

☆閑話休題

二月三月花ざかり、うぐひす鳴いた春の日のたのしい時もゆめのうち。五月六月実がなれば、枝からふるひおとされて、きんじよの町へ持出され、何升何合はかり売り。もとよりすっぱいこのからだ、しほにつかつかからなくなり、しそにそまって赤くなる。

七月八月あついでころ、三日三ばんの土用ぼし、



紫陽花(アジサイ) 別名は七変化(シチヘンゲ)

七変化とは、咲き始めてから時間が経つにつれ、色を変えることからついたらしい。

思へばつらいことばかり、それもよのため、人のため。しわはよつてもわかい気で、小さい君らのなかま入り、うんどう会にもついて行く。ましていくさの時、なくてはならぬこのわたし。  
「うめぼしのうた」  
明治時代から大正時代にかけて、尋常小学校の国語教科書に掲載されていたそうです。

庭の多くの花々は雨に打たれて弱つていきますが、花菖蒲と紫陽花の一角だけは元気です。土壌が酸性だと青系に、アルカリ性だと赤系になるそうですが、同じところで赤色と青色が共存しています。



○庭の垣根代わりにブラックベリーやラズベリーも植えています。数週間前はガーデンングの合間にイチゴを採って食べていましたが、現在は、ラズベリーを時々つまみ食っています。そんなには食べられないので、これらはガーデンーの手でジャムに変わります。裏ごしして種を取ったものはジャムと言うよりラズベリーソースという感じで、ヨーグルトに混ぜていただく逸品です。



ラズベリー

○3種のヒペリカムを植えています。立華新風体の根締めによく使いますが、上の花の色との取り合わせを考えられるように、実の色が、赤、橙、黄のものです。ガーデンーの要望で、立華新風体に堅い印象のギガンジウムを使いました。主に使ったので、用には柔らかいススキの葉を用い、そして、ヒペリカムをそれらのあしらいとして、珍しく準主役級の扱いで使いました。



立華新風体

ギガンジウム、ススキ、ヒペリカム、ホタルブクロ、ケトウ、アジサイ、ギボウシ、アメリカテマリシモツケ



ヒペリカム(黄)



ヒペリカム(橙)



ヒペリカム(赤)

もう一つ立華新風体を特急仕上げです。



二株の立華新風体

ヤマアジサイ、タカノハススキ、ナツツバキ、フロックス、チンシバイ、ハナシヨウブ、ヒペリカム

余った花でいつものように。



銅製水差しに生けてみた

たくさんのお地蔵様は大喜びかな。



